

Kingfisher News

4月に入り、急激に気温が高くなるようになりました。全国のあちこちで夏日が観測されるようになり、さらに真夏日も観測されています。気候の不安定化が一層顕著になっています。

今回も前回に続いて、広島県温暖化対策活動促進補助金を頂いて製作した、「気温上昇が原因と考えられる現象」を主題としたパネルの紹介をしたいと思います。

トピック

気温上昇が原因と考えられる現象（3）

今回は、「海面上昇の影響」についてです。

世界的な影響では、「海拔の低い島国への影響」、「気候難民の発生」、「海の生態系への影響」が考えられます。

南太平洋にあるツバルは島のほとんどが海拔1m未満、現在1万人が暮らしており、このまま海面上昇が続いた場合、完全に陸地が水没し、国自体が無くなります。

気候難民は島国だけでなく、海岸沿い位置する都市でも懸念されています。水上都市イタリア・ベネチア付近の海面は19世紀より既に28cm高く、2019年には水位が187cmに達し、町の85%が水没しました。

海の生態系で最も懸念されているのがサンゴ礁で、海水温の変化、海面上昇により死滅する可能性があります。

日本への影響では、「大都市圏の浸水」、「砂浜の消失」、「水資源の影響」が考えられます。

海拔0mの都市部（特に東京、名古屋、大阪）では、浸水や冠水が懸念されています。

日本で海面が1m上昇すると、90%以上の砂浜が失われると予測されています。砂浜が無くなることで、景勝地の消失だけでなく、堤防基礎部分の掘下げによる陸地への浸水リスクが高まります。

また沿岸部では、海面上昇に加え、降水量が少ない時期が重なることで河川や用水に海水が逆流し、用水の塩分濃度が高くなります。川や用水に海水が混ざると、農地の作物が育たなくなり、淡水魚が死滅します。

気温上昇が原因と考えられる現象（3）

海面上昇の影響

1. 世界的影響

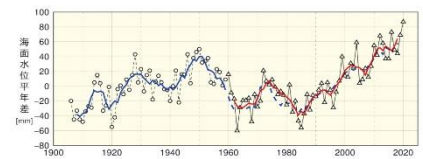


「海拔の低い島国への影響」：海拔の低い島国にとっては、わずかな海面上昇でも深刻な被害を受けます。南太平洋に浮かぶツバルは島のほとんどが海拔1m未満、このまま海面上昇が続いた場合、完全に陸地が水没し、国自体が無くなってしまいます。

「気候難民の発生」：気候難民となる可能性が高い国は、ツバルをはじめ、海拔の低いモルディブ、マーシャル諸島、キリバスなどの島国が挙げられます。

「海の生態系への影響」：もっとも懸念されているのがサンゴの消滅です。海水温の変化や海面上昇の影響によりストレスを受けたサンゴはどんどん白くなり、回復できない場合は死んでしまいます。

2. 日本への影響



日本沿岸の海面水位の変化（引用画像：気象庁）

「大都市圏の浸水」：海拔0mの都市部で浸水や冠水が懸念されています。特に東京、名古屋、大阪

「90%の砂浜が失われる」：海面が1m上昇すると、90%以上の砂浜が失われると言われています。

「水資源への影響」：沿岸部では、海面上昇に加え、降水量が少ない時期が重なることで、河川や用水に海水が逆流し、用水の塩分濃度が高くなります。近くの農地で作物が育たなくなります。



活動予定

第23回地球温暖化防止パネル展：

2024年4月20日から5月15日フジグラン広島 2階 ウッドコート

活動報告

第22回地球温暖化防止パネル展：

2024年4月5日から4月18日フジグラン緑井 4階 ギャラリー「passage」

詳しくはホームページをご覧ください。



TEL: (082) 548-8822 FAX: (082) 548-8833

e-mail: information@ngo-kingfisher.or.jp

<https://ngo-kingfisher.or.jp>